

ま る ご と だ よ り 第8号

にぎわいある農村をみんなで守り育てよう



目 次

☆“濁水ゼロに挑戦”
の取り組みが始まります。

☆わたしたちも
がんばっています。パート1
「棕川の里」 (高島市)

☆大津市の「まると対策」
を紹介します。

☆わたしたちも
がんばっています。パート2
「内池東農村エコファミリー」
(日野町)

発 行 (2009.3)

滋賀県世代をつなぐ農村
まると保全地域協議会

〒521-1224

東近江市林町601番地
水土里ネット滋賀内

電話 0748-42-4806

FAX 0748-42-5574

Email: kyougikai@shiga-
nouson-marugoto.com

“濁水ゼロに挑戦”の取り組みが始まります。

この対策も3年目に入ります。すでに水稻作付の準備をされていることと思いますが、併せて、代かき前の“濁水ゼロ”の取り組みも始めましょう。
この活動は、必ずおこなう必要があります。



水路側の畦から水が漏れないよう、
畦塗り機などで補強を行います。
水を張ったときに水路側の畦から水
が漏れていないか確認します。



各水田の適正な水管理 (濁水
流出止水板の設置、用水の節
水管理) を行います。
また、透視度調査も行います。



看板や、のぼりを立
てて広報、啓発活動
も行いましょう。

お知らせ

◆「みずすましネットワーク」のメンバーを募集しています。

みずすましネットワークとは

みずすまし推進協議会や世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策活動組織、NPO、各種団体、教育機関、個人など、農村地域の環境保全に関心を持ち、地域と供に活動に参加していただける方で構成するネットワークです。

農村地域の環境保全活動に興味のある方ならどなたでも参加OKです。



お問い合わせは

水土里ネット滋賀
農村整備課企画環境担当
TEL: 0748-42-7144
FAX: 0748-42-5564
E-mail: kankyou@midorinet-shiga.com

◆平成20年度の取り組み状況(見込み)をお知らせします。

共同活動

・取組面積(農振農用地)
32,933ヘクタール(県全体の64.2%)

・取組組織(集落)
791組織(848集落)

営農活動

・環境こだわり実施面積
10,442ヘクタール

・取組組織(集落)
562組織(594集落)

(2008.12末集計)

“濁水ゼロに挑戦”の取り組みを進めよう。

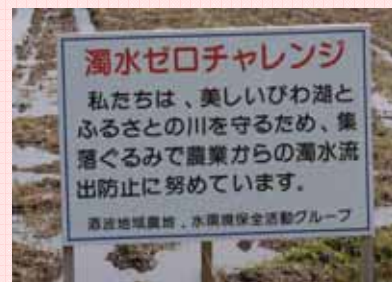
“濁水ゼロに挑戦”の取り組みを始めるにあたり、農村まるごと保全技術研修会でパート4「濁水ゼロに挑戦する取り組み」を進めよう！と題して研修会を開催しました。滋賀県での農業排水対策や、環境こだわり農業による農業排水対策の効果について、県の耕地課と農業技術振興センターから報告がありました。

琵琶湖の汚濁の原因の1割強が、農地系からです。このことから、農業排水対策の啓発活動やさまざまな取組を実施し、平成19年度の県内主要河川の平均透視度は、約20年前に比べ10cm程度の改善が確認された、とのことでした。

環境こだわり農業の取り組みは、試験ほ場での研究の結果、環境への負荷低減効果があり、収量・品質は今までと同水準を確保できている。また、魚のゆりかご水田の取り組みでは、排水路をせき止めることにより、用水量の節減が図られるなど、琵琶湖の水質・生態系保全に貢献している、と報告されました。

濁水ゼロの取り組みを進めることにより、更に琵琶湖の水質の改善に効果が現れることが期待できます。

今年も作付の準備が始まります。みんなで“濁水ゼロに挑戦”を合い言葉に取り組みしましょう。



わたしたちもがんばっています！

～パート1～

椋川の里(高島市今津町)

井上 四郎太夫

当地区は高島市の北西部に位置し、周囲は緑豊かな山々に囲まれた高齢化の進んだ集落で、自然豊かな中で生き抜いてきた知恵や暮らしが受け継がれているところです。

そうした環境に魅力を感じたのか、5～6年前から京阪神から若者が時々訪れ、農業やワラ細工を体験したりして、今では4名の若者が空き屋を借りて定住しています。

昨年度より始まった「世代をつなぐ農村まるごと保全向上対策」には農業者や住民はもちろんのこと、彼ら4名にも声をかけその輪を広げ活動しています。かやぶき屋根の残る集落の景観保全や農道・水路などの保全、減反田の有効活用、水稻の減農薬栽培や無農薬栽培に取り組んでいます。

また、県立大学の野間先生にも協力をいただき、生きものの実態調査をしていただきました。年月の積み重ねが知らず知らずの間に



自然環境に大きな変化をもたらしていることに気づかされました。自然環境に配慮した農業の重要性は理解できるものの、農業に頼らざるを得ない今の農業の現実とコストの面であまりにも現実ばなれした無農薬栽培の実態の差を考えると複雑な思いであります。

平成14年度から取り組み始めた環境こだわり栽培(水稻)は、この事業をきっかけに5ヘクタールとなり、集落の約3割を占めるまでに増加しました。これまでは減農薬減化学肥料栽培でしたが、今年度から2.5アールで無農薬栽培にも取り組んでいます。収穫されたお米は「里山清水米」のネーミングで京都の米屋さんへ販売したり、各個人が直売をしています。この事業を通じて多くの住民外の関係者にもかわりをもつようになり、集落の景観もよくなり農業者はもとより住民全体が元気になってまいりました。今後も多くの皆様のご指導をいただきこの事業を進めたいと思っています。



大津市の「まると対策」を紹介します。



大津市

今年度も3月を迎え、「比良八講」(ひらのほっこう)と呼ばれる突風が吹いて琵琶湖が大荒れになる自然の驚異の後、湖国に本格的な春が訪れるとされています。

当市の地勢は、南北に細長いこともあり、地域により気象も様々で、農地の形態も大区画ほ場であったり、中山間地の小区画であったりと特徴的であることから、田園の移り変わる風景は、多くの市民にとっての憩いの場の提供という機能を発揮しています。また、管理の行き届いた、ため池の自然と調和したすばらしい風景が印象的で、水の大切さと共に住民の方にやすらぎを与えています。



では、当市の「まると対策」を紹介します。

共同活動の取組みは、23集落14組織、対象面積約646ヘクタールで行われています。生き物観察会や草花の植栽による景観形成活動、農作業体験を通じた都市住民との交流活動など、地域の各団体の協力による様々な活動が行われ、1日、1日集落に賑わいが見られたと思います。

また、畦畔の高い中山間地の一部の地域においては、以前から農作業の効率化、農作業の安全の観点から、畦畔のカバープランツとして「センチピードグラス」の植栽が行われ、初期からの良好な管理により、ほとんど草刈りの必要がなく、農作業の省力化と共に良好な景観形成が図られています。



農林水産課

営農活動は、水稻による環境こだわり農業が6組織、64ヘクタールで進められています。特徴的な取組としては、新たに取り組みをした6ヘクタールについて農業関係機関との連携により、優れた緑肥効果と強い雑草抑制作用のある「ヘアリーベッチ」100パーセン

トで生産した環境こだわり米を「はなふじ米」として命名し販売したところ、消費者からは安全で安心な地域の米を食することができると好評となっています。



【ヘアリーベッチの花】

平成20年度は、天候にも恵まれ農産物につきましては作況もよく、安定して良質な生産が行われたと聞いています。このような農産物を通じて、それぞれの地域において地産地消などの活動や地域おこし、地域アピールが活発に行われた年であったと感じています。

最後に、この対策はまさに手探りの状態で始められた訳ですが、今年度は「有難い事業」「新たな取組みにチャレンジ」など組織からご意見を頂きました。初年度は60点でも、今後は毎年10点ずつでも新たな発想により積み上げ、最終年には100点になるように、この対策を通して農業・農村に賑わいが増し、全域に波及して行くよう、活動組織のみなさまと共に進めて行きたいと考えていますのでよろしくお願いします。

各活動組織のみなさん本当にご苦労様でした。また、最後の実施状況報告の準備をよろしくお願いします。



質問コーナー

(質問)

活動指針チェック表の「今後の活動計画」にチェックを入れていない活動についても実施してもよいのか。

(答え)

かまわない。

実施状況報告書の「実施欄」に「○」を記入し、実施項目数に計上してください。

(質問)

促進費活動での労務単価は、換算労務費で計上しているが、必ず日当を支払う必要があるのか。支払う場合はその単価で支払うこととなるのか。

(答え)

促進費活動の規模を判断するために算出するものであり、日当の支払いを義務づけているものではありません。また、日当を支払う場合の額を規定するものではなく、地域の状況に応じて単価を判断してください。

◆実施状況報告書の作成はできましたか。

- 「実施状況報告書」「実施状況調書」を期日までに市町へ提出しましょう。
- 報告書により市町で活動の実施状況の確認が行われ、確認通知書が通知されます。
- 交付金の収支の実績を、実施状況調書により提出しましょう。



おねがい

◆投稿や情報の提供を
お待ちしております。

※「うちの組織ではこんな活動をしてみんなよろこんでくれた。」「うちの町ではこんなユニークな取り組みをやっている。」というところがあればお知らせください。お待ちしております。

◆インターネットによる各種情報発信
メールアドレス登録募集

※さまざまな情報をいち早く活動組織のみなさまに届けるため、「お知らせ」やメールマガジン「にぎわい通信」をインターネットで配信しています。

投稿やメールアドレス登録の連絡先は、
kyougikai@shiga-nouson-marugoto.com

編集後記

これから、だんだんと暖かくなり、4月からは新しい年度がスタートします。

役員が交代の組織が多いと思います。しっかりと引き継ぎをお願いします。すぐに新年度の活動が始まります。20年度のまとめもしっかりとやらなくては。

(H.T)

わたしたちもがんばっています！

～パート2～

内池東農村エコファミリー（日野町）

代表 中西 篤

内池東集落は、近江鉄道日野駅の東側に位置する地域で、戸数56戸（人口190人）、農家戸数は6戸、水田面積も約10ヘクタールと比較的小さな農業集落です。今回の「世代をつなぐ農村まると保全向上対策」も初年度から取り組むには不安もあり、1年間は足踏み状態でしたが、先進集落からのアドバイスもいただき、1年遅れのスタートとなりました。

組織を構成している団体は、自治会、老人会、子ども会、女性会などで、主な活動としては、「豊かな田園の生きものを育む取り組み」や、「心なごむ田園景観を守り育てる取り組み」を実施してきました。

豊かな田園の生きものを育む取り組みでは、平成20年6月15日（日）内池東集落北側の農業用排水路を会場に、「NP0蒲生野考現倶楽部」のご協力を得て、生きもの調査を行いました。当日は早朝から防災訓練や、地区グランドゴルフ大会でみんな疲れていましたが、一度水路に入って生きものを探しはじめると、子どもも大人も我を忘れて、一生懸命生きものと格闘。ザリガニやゴリ、貝、田んぼにはタニシや豊年エビなどの生きものに出会うことができました。また出雲川に投網を打つと、何と体長50cmにも達する「ナマズ」が現れ、子どもたちも大喜びでした。

また、心なごむ田園景観を守り育てる取り組みでは、平成20年10月19日（日）地域のみなさん参加のもと、農業用水路の清掃と、水路が陥没しているところの補修作業を実施しました。今まで農業組合では農家数も少なく、長年土砂で堆積していた水路の清掃に手を付けることができませんでした。しかし、今回みなさんのご協力で、見違えるほどきれいな水路に生まれ変わりました。当日はユンボをお借りして、水路のヘドロを撤去するなど、地域の協働の大切さを痛感した一日でした。

また、心なごむ田園景観を守り育てる取り組みでは、平成20年10月19日（日）地域のみなさん参加のもと、農業用水路の清掃と、水路が陥没しているところの補修作業を実施しました。今まで農業組合では農家数も少なく、長年土砂で堆積していた水路の清掃に手を付けることができませんでした。しかし、今回みなさんのご協力で、見違えるほどきれいな水路に生まれ変わりました。当日はユンボをお借りして、水路のヘドロを撤去するなど、地域の協働の大切さを痛感した一日でした。



投網にかかったナマズ



滋賀県世代をつなぐ農村まると保全地域協議会

- 本協議会は、活動組織への支援や、採択手続き、交付金の交付事務などを行っています。
- 書類作成にかかる参考資料や、活動事例などの情報をホームページでお知らせしています。

滋賀県世代をつなぐ農村まると保全地域協議会ホームページ

<http://www.shiga-nouson-marugoto.com/index.html>

(※地域の取組写真を掲載しています。みなさんからの提供をお待ちしています。)



ため池の雑木処理（竜王町西川）



子ども会との花植え（近江八幡市西生来町）



生きもの観察会（甲賀市水口町泉）